

## 歌ノレノ래 145

## 童謡『島の家の子供』(ソムチプアギ)

(섬 집 아기)

山根 優郎

韓国食堂で

この童謡『島の家の子供』(作詞・韓寅鉉、作曲・李興烈)を初めて聞いたのは、2年前(07年)7月21日にむくげグルメの会で行った神戸の韓国食堂「百済」(くだら)であった。ゲストとしてお招きした高秀実(留学生・神戸学生青年センター朝鮮語講師)さんに「好きな歌を歌って!」とせがんで歌ってもらった。とてもきれいなメロディであった。学校で習った童謡とのことであった。

終わり頃、皆さんが私に好きな歌を聞いたので、私は以前、甥や姪を寝かす時によく歌っていた韓国童謡『オムマヤ ヌナヤ』(お母さん お姉さん)と『ソムチプアギ』(島の家の子供)を紹介した。この童謡はみなさんが知らない歌のようで大好評であった。関心を持って私の歌を聞いてくれたので、嬉しかった。

「むくげ通信 223号」07.7.29 むくげ食道楽42韓国レストラン「百済」—高秀実より

## 第2位の人気曲

早速、家に帰り『島の家の子供』をパソコンで探してみた。KBS WORLDの「韓国語講座」の「韓国の童謡」の欄にあった。  
♪母さんが島陰にかきを取りに行き

子供が一人残り留守番をしていると  
海が歌ってくれる子守唄に  
腕を枕にうとうと寝入ってしまいます  
その説明(43:31)では「ある放送局がおこなった調査で今年(2006年)韓国人が一番好きな童謡の2位になったそうです...」  
歌手李仙姫(イ・ソニ)の歌声が流れた。

その時は、ほ~!そんなに人気のある童謡なのか!と感心したが、今回はその調査の内

容を調べて見た。2006.04.20付け『少年韓国日報』「山うさぎ」「산토끼じゃなく「熊三四」「곰세 마리」を歌つて

子供と父母、好きな歌は別々

世代によって好きな童謡も大きな差異があるようである。このような事実は最近、EBSスペースが全国の3~7歳の子供1000名と父母を対象にした「子供と父母が好きな童謡20」アンケート調査を実施した結果、明らかになつた。この調査で子供たちがもっとも好きな童謡は、「熊三四」であった。子供たちは父親たちがもっとも好きな歌として選んだ「山うさぎ」を最後から2番目に好きであった。母親たちがもっとも好んで歌う「果樹園の道」「과수원 길は、20位以内にも入らなかつた。

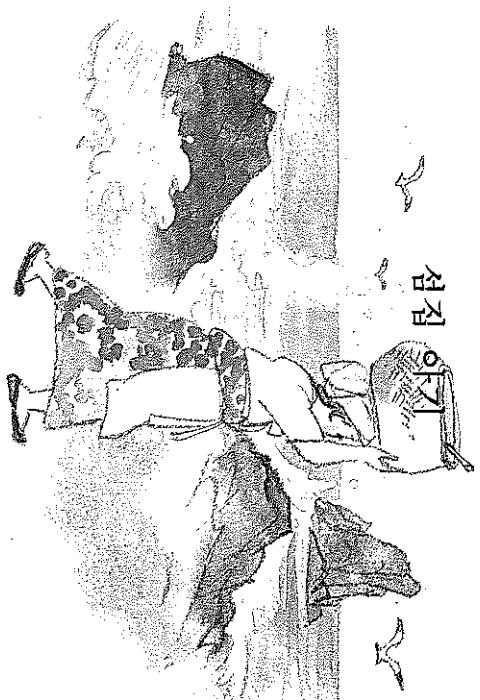
子供たちがもっとも好きな童謡は「熊三四」(10.30%)に続き「子やぎ」「아기 염소」(5.80%)、「カエルとお玉じゃくし」「개구리와 올챙이」(5.48%)、「お父さん元気を出して」「아빠 힘내세요」(4.32%)…(以下省略)。

反面、母親たちが好きな童謡としては「果樹園の道」(14.5%)、「島の家の子供」「섬집 아기」(12.8%)、「野バラの少女 キャンディ」「들장미 소녀 캔디」(12.1%)、「ポンダンポンダン」「퐁당퐁당」(11.1%)の順であり、父親たちが好きな童謡は「山うさぎ」(11.1%)、「果樹園の道」(10.2%)「ポンダンポンダン」(10.2%)の順であった。

このように、正確には『島の家の子供』は、母親たちが好きな童謡の第2位である。

なぜ、母親の圧倒的な支持があるのか?  
それは、2番の歌詞を聞けば容易に分かる。  
♪♪子供はぐっすり 眠っているが

カモメの鳴き声に 母さんの心が騒ぐ  
いっぱいにならないかきの籠を頭に載せ  
母さんは砂道を 走って家に帰ります  
まさに、この歌は家に残した子供を気遣う母親の愛情を見事に表現している。ひなびた島の寒村で母子が幸せに暮らしている情感が伝わってくる。「いっぱいにならないかきの籠」(다吳 찬 굴 바구니)の歌詞が母親の気持ちをよく表現している。子供の父の不在も気にかかる。出稼ぎに行っているのか?



卷八

바닷가의 정경을 마음 속에 그려 보며 부드럽게 노래를 불러 보자.

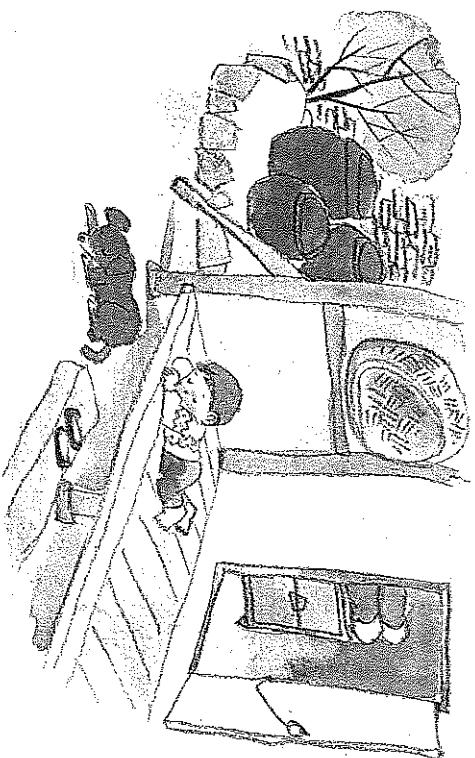
조금노래

한국  
언어  
학사  
이종렬  
작곡

A musical score page showing two staves of music. The top staff uses a treble clef and the bottom staff uses a bass clef. The music consists of measures with various note heads and stems. The lyrics are written below the notes in Korean. The first measure has lyrics: '제 기 물 음 소 희'. The second measure has lyrics: '가 흐 래 짜 남 아'. The third measure has lyrics: '집 땅 을 보 려 가 어'.

— 차 데  
— 에 고  
— 래 이  
— 노 은  
— 차 데  
— 는 데  
— 주 구  
— 레 바  
— 물 을  
— 가 친  
— 마 뜻  
— 바 데

A vertical staff of musical notation for a single melodic line. The staff consists of five horizontal lines and four spaces. It features a treble clef at the top, a key signature of one sharp (F#), and a common time signature. The melody is composed of eighth-note pairs and sixteenth-note pairs, primarily in the upper half of the staff. Some notes are connected by horizontal stems, while others are separate. There are two small black circles with arrows indicating performance techniques: one near the beginning pointing to the left, and another near the end pointing to the right.



『島の家の子供』作詞・韓寅鉉、作曲・李興烈

♪母さんが島陰にかきを取りに行き

子供が一人残り留守番をしていると

海が歌ってくれる 子守唄に

脳を枕にうとうと寝入ってしまいます

♪♪子供はぐっすり 眠っているが

カモメの鳴き声に 母さんの心が騒ぐ

いっぽいにならないかきの籠を頭に載せ

母さんは砂道を走って家に帰ります



作曲家 李興烈

## 1950年4月に詩が発表

『島の家の子供』は、詩人・韓寅鉉（ハン・インヒョン）が1950年4月に児童雑誌『小学生』に‘童詩’として初めて発表した。朝鮮戦争の直前である。（詩が盛んな韓国では、児童文学に‘童詩’[동시]というジャンルがある）童詩『島の家の子供』は長く国民学校（1996年3月1日「初等学校」に名称変更）の‘国語読本4年’に載っていたらしい。

韓寅鉉（1921～1969）は、咸鏡南道の元山で出生、咸興師範学校を卒業後ソウルのウンソク（은석：恩沢？）初等学校（1963年創立、東大門区の東国大学付属の韓国唯一の仏教系私立学校）で国語教師を勤めながら童詩の創作と作文（글 쓰기）運動を指導した。代表作は童詩集『タンボボ』（민들레・1947年）。

## 1990年代から音楽教科書に載る

60年代前半に作曲家・李興烈（イ・フンヨル）が童詩『島の家の子供』に三拍子・ヘ長調の曲を付けて童謡『島の家の子供』が誕生した。73年11月15日発行の韓龍熙編『韓国童謡半世紀』（世光出版社）P211に楽譜があるが、この歌が1990年代に初等学校の音楽教科書に載せられてから人々の関心を集め‘国民子守唄’になった。私は「1990年3月1日編集、1993年3月1日発行・音楽5年」を持っているが多分1990年から‘音楽5年’に載せられたのであろう。‘08年版’では‘音楽4年’に1学年下がっている。‘93年版’はイラストも良いので今回貼り付けた。

### 作曲家 李興烈

李興烈（1909.7.17-1980.11.17）は「韓国のシーベルト」と呼ばれるほど有名な歌曲の作曲家である。私は、洪蘭坡・玄清明・李興烈の3人を密かに‘ビック3’と呼んでいる。

李興烈は、咸鏡南道の元山で出生、日本の東洋音楽学校でピアノを専攻した。洪蘭坡とともに（1936年）ソウル放送管弦楽団を組織して音楽活動をした。光復以後、国民歌謡、芸術歌曲などを作曲して、大韓民国芸術院賞など

を受賞した。代表的な歌曲としては、『岩の峠』（파웨이 コゲ·바위고개）、『母の心』（어머니의 마음）、『子守歌』（자장가）などがある。08年3月1日発行「中学校音楽1年」P15「音楽家」の欄  
別の複数の資料によれば経歴は、次の通り。

元山光明普通学校、ミッション系の保光中学校を卒業後、1927年日本の東洋音楽学校入学、1931年同校ピアノ科を卒業して帰国。母校の元山光明普通学校教師。キリスト教伝道師の母は彼に高価なピアノを買い与えた。1933年に洪蘭坡の推薦でソウルに移り、京城保育学校の教師になる。1934年に『岩の峠』等を含む「李興烈作曲集」1集を出刊した。解放後はソウル大音大教授、首都女子師範大教授等の後63年から淑明女子大学音楽大学教授、74年から同音楽大学学長を歴任した。

### 済州道で歌碑の建立事業の頓挫

2001年10月に済州道道庁は『島の家の子供』の歌碑（노래비）を1億5千万ウォンかけて北済州郡舊左邑終達里（東側の中間）の海岸に建立する事業を発表した。大衆歌謡『西帰浦七十里』（97年）、歌曲『離れる船』（99年）に続く3番目の歌碑になる予定であった。同年6月に開催された「第1回耽羅全国合唱祝祭」の閉幕合唱曲『漢拏山』を作曲した李永助（イ・ヨンジョ）韓国芸術総合学校音楽院教授（故李興烈の次男）は父親が作曲した『島の家の子供』の著作権を済州道に寄贈するので島（牛島）が望める場所に歌碑を建てて欲しいと要望したためである。しかし市民団体から反対運動が起こった。02年11月14日に説明会が開かれ道庁は‘観光客を呼べる貴重な観光資源になる’と説明したが、光復会・民芸総ほか16ケ市民団体から12月に反対声明の発表が相次いだ。①歌と済州道は何の関係もない②文化芸術団体と事前協議もない③1944年「大和楽団」の指揮者をした親日派の李興烈の歌碑を（海女）抗日運動の聖地である北済州郡舊左邑に建立するのは‘反歴史的な事’と反対した。結局、03年1月24日に済州道道庁は、李永助氏が著作権の寄贈を取り止めたため建立事業を撤回した。（終）